

施策	5102 豊かな心及び健やかな体の育成						
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	有	受益者負担	適正	
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有	
対象	市内小・中学生						
施策が目指す姿	道徳教育の充実、人権教育の推進、いじめ“0”（ゼロ）を目指した対策の推進、体力の向上、食育の推進等を図る。						
成果指標	不登校児数の出現率...平成29年度で1%未満 新体力テストの全国平均値に対する本市平均値...平成29年度で全国平均を上回る 児童生徒に対する食に関する指導回数...平成29年度で3,450回(現状値3,300回)						
目 標 達 成 状 況			平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	成果指標1 [%]	予定	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
		実績	0.93	1.24	1.30	1.32	
	成果指標2 []	予定					
		実績					
	成果指標3 [回]	単位コスト					
		予定	600.00	3,300.00	3,350.00	3,400.00	3,450.00
		実績	3,194.00	4,547.00	5,302.00	5,961.00	
	成果指標4 []	単位コスト	477.28	429.09	266.32	239.52	
		予定					
		実績					
	トータルコスト (千円)	予定	1,716,691	2,001,471	1,451,366	1,469,278	
実績		1,524,431	1,951,073	1,412,036	1,427,800		
内 部 評 価	貢献度	上位基本施策の目標である「保護者の学校教育に対する満足度」の向上には、いじめ防止等対策や食育の推進などが必要であり、本単位施策の貢献度は高い。					
	達成状況	新体力テストの本市平均値と不登校出現率については、目標値に到達せず課題が残る結果となったが、食に関する指導回数については目標値を大幅に上回る結果となっている。					
	課題	新体力テストの全国平均値を下回っている小学生の体力を上げる取り組みの強化と、小学生の不登校出現率が上がっているため、各小学校及び教職員への指導等必要である。					
	取組方針	体力向上については、体育主任研修会等で取り組みの充実を図る。不登校対策については、児童指導研修会や学校への指導訪問等で不登校対応について意識の向上を図っていく。					
外 部 評 価	不登校児童の出現率は増加する傾向にあり、目標未達が続いている。目標の達成には家庭との連携など多方面からの対策が必要と考える。次回評価の際には、具体的な取組みを示されたい。 新体力テストも全国平均を下回る傾向が続いており、特に弱い種目である「投げる」の強化策や小学生の平均値向上に向けた対策を示されたい。 児童生徒に対する食に関する指導の目標は大きく上回り評価できるが、目標値の設定が妥当であったかは疑問が残る。次回の計画に妥当な目標値を設定すること。 成果指標として関連指標の設定はないが、全国的にもいじめ問題は深刻な課題であり、関係者間の情報共有の仕組みや有事の際の情報公開の在り方も検討を願いたい。						
単 位 施 策 達 成 の た め の 事 務 事 業	事業コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度
	534201	適応指導教室運営事業費				24,402	100
	543201	学校給食事業費				942,032	100
	700501	学校給食食物アレルギー対応事業費				12,278	100
	723801	地域特産品学習事業費				0	100
	745101	とちぎの地産地消給食推進事業費				11,090	100
	734501	いじめ防止事業費				7,681	92
	540101	小学校保健事務費				63,219	1
	540401	小学校健康診断事業費				29,221	1
	540501	中学校保健事務費				31,841	1
540601	中学校健康診断事業費				14,094	1	

平成28年度

単位 施策評価表 補表

施策	5102 豊かな心及び健やかな体の育成		
区分	妥当性	妥当	豊かな心と健やかな体の育成のため、必要な事業であり妥当である。
	コスト削減の余地	有	経常経費の削減が見込める。
	受益者負担	適正	受益者負担が必要なものは負担を求めており適正である。
	上位貢献度	有効	学校教育の充実のためには、児童生徒の心身の成長が不可欠であり有効である。
	類似事業の有無	無	類似の事業は無い。
	成果向上の余地	有	体力向上及び不登校児出現率に対する取組については、成果向上の余地がある。
内部評価	貢献度	いじめ防止等の取組をはじめとした生命・人権を大切にする教育や、体力の向上及び食育の推進等により児童生徒の健全な成長が図られることから、上位基本施策の目標「保護者の学校教育に対する満足度」への貢献度は高い。	
	達成状況	食に関する指導回数については前年に引き続き目標を上回ることができたが、不登校児童の出現率は前年に続き増加となった。体力向上については、全国平均を下回ったが、対象の3種目の中で、50m走は全国平均と同等、ソフトボール投げについては全国平均をやや下回り、立ち幅跳びについては前年の下げ止まりから、上向き傾向である。	
	課題	全国平均を下回っている小学生の体力向上の取り組みの強化について、授業の充実等の必要がある。不登校出現率の低下のため、不登校を未然に防ぐための取り組みと、家庭との連携が必要である。	
	取組方針	体力向上については体育の授業力向上をはじめ各学校における取組の充実を促すとともに、小中合同の体育主任研修会を開催、一貫性のある指導に努める。不登校児数の出現率の増加については、不登校やいじめ等問題行動を未然に防止できるよう児童生徒指導研修会や学校への指導訪問等で教職員の意識向上を図るとともに、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等により相談体制の充実・活用を図る。	

事

様式 1

栃木市事務事業評価表

平成 28 年度

会計	一般	款項目	100103	予算事業コード	534201	事業区分	03	管理的事業	新規/その他	2	その他	基本施策		単位施策	
事業名	適応指導教室運営事業費										主	5102	学校教育の充実	豊かな心及び健やかな体の育成	
担当部課 係・担当チーム名	教育部 学校教育課 指導係						担当者	梅山 好昭			従				
事業の性質	2	自治事務	根拠法令等				事業期間	H16 ~ H33 年度		全体事業費 (人件費除)	228,000		千円		
事業の概要	(事業完了(事業期間のない事業は平成33年度)までに、誰(何)を、どういう方法で、どうしたいのか。対象、手段の記入) 不登校児童生徒及びその保護者に対する適応指導・支援や教育相談を行う適応指導教室「はばたき教室」「あじさい教室」「わたらせ教室」「すずかぜ教室」「コスモス教室」を整備・充実することにより、不登校児童生徒の学校への復帰率の向上を図り、不登校児童生徒の減少を目指す。 【主要事業】						達成目標	(事業完了(事業期間のない事業は平成33年度)の目標) 適応指導教室を運営し、不登校児童生徒の減少を目指す。							
	成果目標	不登校児童数の出現率...平成29年度で1%未満 新体力テストの全国平均値に対する本市平均値...平成29年度で全国平均を上回る 児童生徒に対する食に関する指導回数...平成29年度で3,450回(現状値3,300回)													

単位：千円、人	平成27年度決算額	平成28年度決算見込	事業の内容		その成果		平成27年度		平成28年度		事業の事後評価						
事業費・指標の推移	国庫支出金	0	583	【内容】 不登校児童生徒及びその保護者に対する適応指導・支援や教育相談を行う。 ・適応指導員 14名の配置 ・適応指導支援指導員 3名の配置 【成果】 学校、保護者、その他の関係諸機関との連携を十分に図ることができ、通級児童生徒への支援が充実した。	【内容】 不登校児童生徒及びその保護者に対する適応指導・支援や教育相談を行う。 ・適応指導員 14名の配置 ・適応指導支援指導員 3名の配置 ・適応支援サポーター4名の配置 【成果】 学校、保護者、その他の関係諸機関との連携を十分に図ることができ、通級児童生徒への支援が充実した。					妥当性	コスト削減の余地	受益者負担	上位貢献度	類似事業の有無	成果向上の余地		
	県支出金	0	0														
	地方債	0	0							妥当	無	適正	有効	無	有		
	その他特財	0	0														
	一般財源	21,238	22,319														
	事業費 a	21,238	22,902														
	人件費 b	1,500	1,500														
減価償却費 c	0	0															
総事業費 a+b+c	22,738	24,402	指標名	算出方法		単位											
結果指標 1	3,105.00	3,525.00	適応指導教室への来室・電話件数+学校、家庭訪問件数	教育相談件数 H28目標値：2,000件		件											
結果指標 2	64.10	79.59	学校復帰率	学校復帰児童生徒数÷通級児童生徒数×100 H28目標値：70%		%											

事業改善計画	(改善内容とその効果を具体的に記入) 不登校児童生徒及びその保護者に対する適応指導、支援や教育相談を実施した。今後さらに、学校の教職員やその他の関係諸機関との効果的な連携体制を構築し、不登校の予防や早期解消に向けた取組を積極的に推進していく必要がある。														

事後評価備考															
--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事

様式 1

栃木市事務事業評価表

平成 28 年度

会計	一般	款項目	100503	予算事業コード	543201	事業区分	03	管理的事業	新規/その他	2	その他	基本施策		単位施策			
事業名	学校給食事業費										主	5102	学校教育の充実	豊かな心及び健やかな体の育成			
担当部課 係・担当チーム名	教育部 保健給食課 学校給食係					担当者	寺内晴子					従					
事業の性質	2	自治事務	根拠法令等									事業期間	H18 ~ H33 年度		全体事業費 (人件費除)	13,000,000	千円
事業の概要	(事業完了(事業期間のない事業は平成33年度)までに、誰(何)を、どうの方法で、どうしたいのか。対象、手段の記入) 児童生徒の健全な育成に寄与するため、安全安心でおいしい給食を提供する。 併せて地産地消および食育の推進を行う。 【主要事業】										達成目標	(事業完了(事業期間のない事業は平成33年度)の目標) 安全で美味しい学校給食を安定供給する。 地産地消、食育の推進を行う。					
	成果 策目標	不登校児数の出現率...平成29年度で1%未満 新体力テストの全国平均値に対する本市平均値...平成29年度で全国平均を上回る 児童生徒に対する食に関する指導回数...平成29年度で3,450回(現状値3,300回)															

単位：千円、人	平成27年度決算額	平成28年度決算見込													
事業費・指標の推移	国庫支出金	0	0	平成27年度						平成28年度					
	県支出金	0	0	【事業の内容】 ・安全で美味しい学校給食の安定供給・食に関する指導の充実及び安全管理、衛生管理の徹底。 【成果】 ・調理場への巡回により調理作業や衛生面の指導を行った。 ・各学校で食に関する全体指導計画を具体的にし、学年別に、教科、道徳、特別活動等の指導において、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を育んだ。											
	地方債	0	0	【事業の内容】 安全で美味しい学校給食の安定供給 老朽化した調理機器等の更新 地域特産品学習の推進、食育の推進 【成果】 ・調理場への巡回により調理作業や衛生面の指導を行った。 ・各学校で食に関する全体指導計画を具体的にし、学年別に、教科、道徳、特別活動等の指導において、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を育んだ。											
	その他特財	665,000	649,600												
	一般財源	137,659	155,932												
	事業費 a	802,659	805,532												
	人件費 b	136,500	136,500												
減価償却費 c	0	0													
総事業費 a+b+c	939,159	942,032	指標名	算出方法	単位	事業の事後評価	妥当性	コスト削減の余地	受益者負担	上位貢献度	類似事業の有無	成果向上の余地			
結果指標 1	100.00	100.00	地元食材使用率	年間地元食材使用日数 ÷ 年間給食実施日数 H28目標値 100%	%	妥当	無	適正	有効	無	有				
結果指標 2	100.00	100.00	年間安定供給実施率	年間安定供給日数 ÷ 年間給食実施日数 H28目標値 100%	%	妥当	無	適正	有効	無	有				

事業改善計画	(改善内容とその効果を具体的に記入)											
	安全で美味しい学校給食を安定的に供給した。 地域特産品を利用した献立「とち介ランチ」により地産地消を推進し、「食に関する指導実践事例集」や「ちよこっと食通信」「アイデアシート」を活用し、各学校で食育に取り組んだ。											

事後評価備考												
--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--